

富山市総合計画審議会「第2回 協働・連携部会」 議事録

日時：令和3年9月27日（月）14:00～15:30

場所：Toyama Sakura ビル 5階中会議室

出席者：(順不同)

中村 和之	富山大学副学長（部会長）
山本 覚	株式会社日本政策投資銀行富山事務所所長（部会長職務代理）
今井 壽子	NPO 法人花街道薬膳のまちを夢みる会理事長
北岡 勝	富山市自治振興連絡協議会会長
佐藤 鉄朗	公募委員
松浦 憲秀	公益社団法人富山青年会議所理事長
村上 宏康	とやま未来共創チーム会長
綿谷 雅代	富山商工会議所女性会会長

企画管理部 前田部長、渡辺理事、森次長、山口企画調整課主幹、堀企画調整課主幹、
村中企画調整課主任、牧野企画調整課主事

財務部 牧田部長

こども家庭部 大沢部長

市民生活部 岡地部長

商工労働部 竹井次長

農林水産部 山口部長

活力都市創造部 狩野次長

建設部 澤野公園緑地課長

議会事務局 浦野事務局長

教育委員会 山本事務局次長

議事内容：

1. 開会
2. 第2次富山市総合計画後期基本計画（案）についての意見と対応
事務局から第1回部会での意見に対する対応案について説明。

委員

- ・ 前回の議論を踏まえて修正いただいたとのことだが、市としてやりたいことが分かりにくい箇所がある。個々のアクションプランはどのようになるのか。
- ・ 国、県や他市町村との連携については記載されているが、市民との協働はどのように連携していくのか。

事務局

- ・ 抽象的であるという点についてはご指摘のとおりである。総合計画の性質上、市の基本的・長期的なまちづくりの方向性や目指す都市像を実現するための目標の下で、現状と課題を認識して施策の方向を決めている。

この総合計画事業については、実施計画、いわゆるアクションプランに相当するものを毎年ローリングで定めて年次計画として実行しており、実際にこの総合計画事業を実施するときは、実施計画に基づいて展開していきたいと考えている。

- ・ 連携については、民間との様々なコラボレーションも進めていくことが重要であると認識している。
- ・ 表現については、ご指摘があれば対応する。

委員

- ・ スケッチラボには外部から視察が来ており、自ら連携を取りに行ける立場にもあるため、それらの成功例を市へも幅広く展開できればと考えている。

部会長

- ・ 総合計画の性質上、表現が難しい部分もあるが、その背後には個別具体のしっかりした事情があり、背景がある、ということをご理解いただきたい。
- ・ 連携については、特に取り上げている事項は連携なくして進まないというものも多く、事業の方法論の一つとして、全体に通じる手法であるという考え方もご理解いただきたい。

委員

- ・ スケッチラボでは学生や市民の方々から意見をいただき、その取り組みが地域課題の解決に反映されていると素晴らしいと思うが、現状の取組についてご教示いただきたい。

委員

- ・ 学生をはじめ若い方々の意見をしっかり聴くための施策としてスタートしたもののだが、民間だけで実施しても声が届きづらいということもあり、行政との連携により運営している。学生から見て年代が近い大学生や20代前半の人が受付業務をする等、話しやすい空間づくり、場づくりを行い、そこでイベントや議論を進めてきた。

そこで感じたことは、参加した方々の富山に対する意識は非常に高く、富山市を良くしたいという思いやアイデアをたくさん持っている。ただし、「自分たちの思いは伝わっていない」とも感じている。

これらのアイデアを掘り下げるのは我々大人の役目であるが、良いアイデアが出て最終的に結果を出さないといけない面もあり、これらの結果が出てくると、少しずつステップアップしていけると思う。

- ・ 「東京では富山の情報が入ってこない」という話も聞くが、市や県は「情報はホームページで公開している」というスタンスである。情報はある程度手前まで提供すべきだと思う。

委員

- ・ 民間会社と協働しながら実施しているイメージがあるが、まさにスケッチラボの取組はその良い例だと思うので、様々な企業等と連携して実際に取り組んでいることを堂々と総合計画に記載しても良いと思う。

部会長

- ・ 総合計画において「戦略的かつ効果的な情報発信」という言葉でまとめられているが、もう少し具体的に書き込んでいただきたい。戦略的かつ効果的な情報発信というのは、単なるお題目ではなく実態を伴ったものである必要がある、というところは認識していただきたい。前提に個別具体的なものがあり、その上に抽象的な表現があるという考えは大事である。

委員

- ・ 国・県・市の役割分担について、富山県の成長戦略でも官民連携がキーワードとして打ち出されており、富山市は全国的に見ても官民連携を先進的に行っている自治体だと認識しており、ぜひその実績を出していただきたい。また、その他の自治体も富山市の真似をして広がっていく形になると良いと思う。

部会長

- ・ 富山市は先進的に官民連携を進めてきたと思う。その実績を踏まえて新たなことを、あるいは横展開を目指して他の自治体への情報提供することを今後の取り組みとしてご検討いただきたい。
- ・ 今後、出た意見をどういった形で分かりやすく発信していくか、ホームページや冊子で見やすく伝えられるか、というところが大事である。市民の皆様が、書いてあることに対して「もっとこうしたら良いのでは」といった意見が言えるような形にすると、より生きた計画になると思う。

委員

- ・ 最終的に市がどういう方向に向かっていきたいのかが不明確で、富山市以外にも通用するような内容になってしまっている。市民もこれを読んで富山市としてのイメージを持ちづらいのではないかと思う。

部会長

- ・ 総合計画の構造上、個別のメッセージとして出すことが難しく、また網羅的にならざるを得ない部分もある。今回の後期計画の枠組み自体を根本から変えるのも難しい。しかしながら、まずは「こういう形で連携したい」というメッセージがしっかり伝わるような形で作りを工夫していただきたい。今回は「基本計画の見方」として工夫していただいたが、書き方についても少しでも工夫できるところがあればお願いしたい。

委員

- ・ 学校現場と行政、民間がもっと繋がれば良いと思う。子ども向けに出前講座等をすることもある

が、行政側へ融通が利かず実現できないこともある。ゼロから関係を組み立てるのではなく、既存の仕組みを上手く使って連携を図ることで、窓口が広がる等できるようになることは多いと思う。

- ・ 行政であっても、公平性にとらわれず、柔軟に考えることで自治体も生き残っていけると考える。

部会長

- ・ 当然、行政として公平性は絶対条件ではあるが、シティプロモーションをはじめ戦略的にメリハリをつけていかなければならない部分もある。

委員

- ・ 抽象的な表現になってしまっており、力になりたいと思っても何をすれば良いのか分からない方が多いと思う。
- ・ 中身を端的に伝えようとする場合、例えば「健康長寿日本一」のような短い言葉だと分かりやすい。
- ・ 社会貢献していく上で、世代毎に受け継いでいくのではなく、小さい頃から社会参加して皆で連携、協力する社会づくりが大切である。
- ・ 近年では核家族が増えたが、これからは2世帯住宅等、「一緒に暮らす」ということを進めていきたい。

部会長

- ・ 子供との関わりについては他の部会とも関係してくるため、共有いただきたい。
- ・ 総合計画の表現についてはかなり抽象度の高いものであるが、これをどうやって生かしていくかは今日伺っただけでも様々なアイデアがある。本部会だけではなく全体に通じるところであり、工夫していただければと思う。

委員

- ・ キーワードとして「コミュニティの強化」や「連携」、「地域を支える」が出てくるが、これらは協働・連携部会の中心となる概念であり、それを支える一つが自治振興会活動であると思う。P.5「地域との関係が希薄で、愛着を持つことが難しいと感じる」という表現は、自治振興会における課題であると言える。

地域に支えられて活発に公民館活動や自治振興会活動ができるということは、富山市のシビックプライドを醸成する一つの大きな力になっていると感じる。

コロナ禍でこの活動ができないもどかしさがあるが、さらにこの活動を活発にして、市民パワーを住民の中に取り込んでいくこと、あるいは独居老人、体の都合が悪い方々を輪の中に取り込んでいくことが必要ではないか。

- ・ 小中学校との協力については、今、各学校においては、その地域との輪を大切にし、地域の呼びかけに対して積極的に応じてくれている。地域活動の中に子供たちを巻き込んで、さらに地域を盛り上げていくような活動を、地域、学校、若者を取り込みながら盛り上げていきたいと考えている。

部会長

- ・ 本市における自治振興会の役割は非常に大きく、行政とのコラボレーションという形でも非常に力を発揮していただけたと思う。今回修正案を出していただいたが、強みだというところはしっかり記載していただいたので、それを踏まえてこの計画がさらに具体的に展開するための道しるべになれば良いと思う。

委員

- ・ 公民館は好きな時間に気楽に訪れることができる場なのか。

事務局

- ・ 公民館は基本的に社会教育の場であり、利用者の方はダンスや料理教室等の活動を通して交流されているが、お茶を飲みに行くような場ではない。どなたでもお使いいただける場所というのはご認識の通りである。

委員

- ・ 公民館は研修施設、学習施設であり、その地区の方がテーマを持って、例えばサークル活動で絆を深め合ったり、各種団体が研修の一環として活用したりするための施設である。そういった繋がりの中に、あるサークルではお茶を出す機会があったかもしれない。
地区の方々が盛んに交流し合う、研修し合う、磨き合うといった趣旨で行っているのが公民館活動である。

部会長

- ・ コミュニティを考えるときに、何かしら話をしながら、些細なきっかけで生まれるアイデアも非常に大事である。そのような場、プラットフォームをどういった形で作っていけばいいのか、現代では例えばフェイストゥフェイスだけでなくZOOMを使って話し合う等も考えられ、民間、NPO、行政が連携して考えていくべきところであると思う。

事務局

- ・ 公民館をこの先どうしていくべきかという問題意識は持っており、引き続き検討していく。

委員

- ・ 各公民館や地区センター、研修会等をインターネットで調べてもなかなかヒットしないため、その地区で参加しづらい。
- ・ 私たちが実際に今から何を目指してやっていけばいいのかが分からない。文章は綺麗だが、言葉だけが独り歩きしてしまっている印象を受けた。

部会長

- ・ 抽象的な表現の根本には、個別具体的問題意識があるのであって、それを今後の拠り所として計画を作っていただきたい。

委員

- ・ 行政は規則や踏襲にとらわれることが多いが、かつて、富山型デイサービスが生まれたように、良いと思ったことはどんどん進めて欲しい。市から県へ職員を派遣して業務をしているという話も聞けるが、そういった枠を超えた取り組みをより一層進めていただきたい。
- ・ おでかけ定期券がより多くの方に利用していただけるよう拡充していただきたい。
- ・ 市民大学について、固定化せずより多くの方が行けるよう周知・啓発していただきたい。

部会長

- ・ 県、国との連携について、どちらが上か下かではなく、垂直的な連携を大事にしていきたい。
- ・ 市民大学に関するご意見については、広報・周知の仕方、情報発信や提供がポイントで、戦略的かつ効果的な情報発信と表現するからには、しっかり意識して取り組んでいただきたい。

委員

- ・ 「現状と課題」はどのようにまとめたのか。また、他にも課題がある中で、絞り込んで記載しているのか。

事務局

- ・ 前期計画を策定した 5 年前と比べて状況が変わっているところもあり、改めて施策を展開する中において、現状についてそれぞれの施策を担当している担当課が中心となってまとめたものである。
「現状と課題」については、この認識では甘い、この現状分析は違う、若しくは足りないというご意見があれば、施策の方向がぶれないように、現状をしっかり認識するのは大事なことであるため、ご指摘いただきたい。

委員

- ・ 課題は各担当課でまだまだたくさんあるのではないかと思う。

委員

- ・ こういった会議に中学生や高校生等、次世代の若い人達を入れていただきたい。オブザーバーでも良い。例えば、自分たちが住む富山市の 5 年先の計画に参画した、という当事者意識を持っていただくためにも、是非検討いただきたい。
- ・ 予算を使う際に、ハード整備ばかりではなくソフト整備にもお金をかけていただきたい。

事務局

- ・ 総合計画は、元々地方自治法で、まちづくりの長期的な方向性等を基本構想という形で策定する義務があった。その後、平成 23 年に地方分権改革の流れの中で、それぞれの地域の自主的な判断で策定することとなった。国が策定を義務付けるものではなくなったが、富山市としてはまちづくりの長期的な方向性を市民の皆様をしっかり伝えるため策定している。

総合計画は教育、雇用、福祉、環境等、いわゆる行政の守備範囲をある意味すべて網羅するものであり、どこかに特化したような計画となると、それは総合計画の性格から外れてしまうため、どうしてもこういった文章的な表現になってしまう。

いま一度じっくりお読みをいただくとご納得いただける部分もあると思うし、その上で、なお分りにくい表現があるとすればご意見を受け止め、工夫できるところは工夫したいと考えている。

部会長

- ・ 「ハードよりもソフト」については、富山市はかなり取り組んでいるほうだと思う。そういう点をよりプロモートしていくと、試みが明らかになって理解も深まるのではないかな。
- ・ 若い人の参加については、中高生向けのタウンミーティングや学校での出前講座もご検討いただきたい。色々と工夫の仕方があると思うので、若い人への情報発信に心掛けていただきたい。
- ・ 前回、今回の部会でいただいたご意見のうち、個別具体の取り組みや事業については、各担当部局で次年度以降に総合計画事業に位置付けるかご検討いただきたい。また、「施策の方向」や「目標とする指標」など基本計画に関するものについては、調整部会において報告し、答申案を取りまとめる。

以上